

# 最悪の危機を迎えた物部川



水量が少なく川幅も狭くなった物部川下流(戸板島橋から香美市を望む)

7月は河川愛護月間です。私たちは、河川からたくさんのお恩を受けながら生活をしています。そんななか、市内を縦貫して流れる物部川はここ数年、濁水の問題などその環境が危ぶまれています。

今月号では、物部川漁協組合長の岩神篤彦さんにかがった物部川の現状を紹介するとともに、河川環境保護で私たち市民ができることを考えてみたいと思います。

## ◆物部川の危機的状況の原因

今、物部川で起こっている問題として、長期の濁水、濁水の問題、農業に伴う濁水(短期)、河口閉塞などがあります。

物部川では近年、上流域の森林の管理が十分に行われないことで、水の源となる山の保水力が低下したり、平均的でなく一挙に降ることが多くなった雨により、安定した水量が川へと流れない状況が続くようになってきています。

一方、豪雨などで山林が崩壊すると、その土砂が川に流入、堆積して濁りを発生させます。本来であれば、山に蓄えられたキレイな水が次々と濁水を押し流すところですが、山の保水力が低下したことから、キレイな水は短時間で減水してしまいうため、いや応なしに下流にある三つのダムは濁水を蓄えておかざるを得なくなり、このことが長期の濁水化の一因ともなっています。

## ◆生態系への深刻なダメージ

濁水などの影響は川の生態系にも及んでいます。長期の濁水で光合成ができなため藻類は育たず、エサとして生きている川魚や川虫にとって生きづらい環境になっており、その数も減少しています。

また、物部川は天然アユが遡上する全国的にみても貴重な河川ですが、年々アユの数も減っています。たとえ遡上しても、えさ不足で親となるアユ自体が生育できず、産卵できない状況や、濁りなどが原因で発病するといわれている冷水病の問題が起こっています。ほかにも、濁水により、下流部の水が少ない流域への生活雑排水の流入による川の汚染や、水が少ないために押し出す力が弱く、河口が土砂で埋もれる河口閉塞が生じ、川の水を感じて遡上するアユが物部川へ帰ってくることを阻む原因になり、アユ漁にも大きなダメージをあたえています。



▲永瀬ダム湖に堆積した大量のへどろ（平成19年撮影）  
段差になっている部分には、5 m以上のへどろが堆積しています。（※写真中央に立っている人と比べると、その量の多さがわかります）

※物部川漁協では、アユの産卵所の整備や閉塞した河口の開削などの対策を講じて、何とか今年も四十万匹程度のアユの遡上が推測されているようです。

◆川と人のつながりを

飲み水や農業用水、発電事業など、私たちは、物部に大きな恩恵を受けています。しかし実際は、水が少ないといっても飲み水に困るわけでもなく、現在の物部川の状況を知らなかったという人も少なくないのではないのでしょうか。密接

に関わってきたはずの川と人（生活）のつながりが離れてきているのかもしれない。

そんななか、漁協（海・川）、農協、土地改良区、森林組合、商工会、電力会社といった、水を使おうとする団体と水を保持したい団体など、さまざまな利害が相反する部分のある組織で構成された「物部川21世紀の森と水の会」が平成十三年に立ち上がりました。ここでは、「豊かでキレイな水を皆で生み出す」という共通の利益を追求することを目的とし、一緒になつていろんな思いや悩みを話し合う場をつくり、利害を超えた協力、支援の新たな関係が築かれています。

また、物部川のさまざまな問題への対応が急がれるなか、まずは、「物部川で起こっている状況を皆さんに知ってもらおうこと」を第一に考え、子どもたちの川遊びや環境シンポジウム、環境バスツアーなどの事業を行い、人の視線を川に、また水の源となる山・森、そして海に向けてもらおう



▲香南市赤岡町の海岸で地引網を体験する参加者

【5月27日に開催された環境学習バスツアー】

約130人が参加したツアーは、物部町の山林から、永瀬ダム、香南市吉川町の河口閉塞の現場など、流域をめぐり、物部川の現状を知り、森・川・海のとつながりと自然の恵みを実感する機会となりました。

としてきました。実際、上流域の人が下流を見て、水の少なさに驚き、下流域の人は上流を見て、谷や沢の水が急激になくなっていくことに驚き、その実態を目の当たりにして、川の問題を意識するようになってくれました。

◆川について考えてみませんか？

現在使われている水の量をみたととき、たくさん水を確保することは困難です。しかし、節水や排水についてもキレイな水をつくっていくという努力をすること





は大切です。  
もう一つ大事なことは、恒久的な活動として、山の保水力の回復です。長期にわたりますが、森を育てることや、棚田などの山の土地を再び利用することもこれから取り組んでいけるのではないのでしょうか。  
昔のように子どもたちが元気に遊ぶことのできる川をつくりませんか。川づくりは森づくりへ、森づくりは海づくりへとつながります。たまにでも川について考えてみるということが、これから先の物部川を守っていくことにつながっていくのではないのでしょうか。

## なにげなく流している生活排水が河川を汚している!?

### 私たちにできること

河川環境を考えると、私たちが流す生活排水も河川を汚す原因となっています。

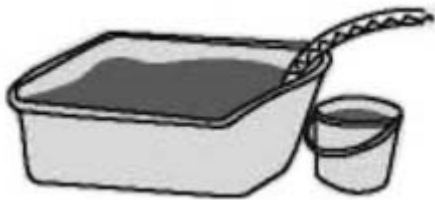
台所、風呂、洗濯など日常生活で使う水は、生活排水として川などに流されます。例えば、みそ汁一杯（一八〇ミリリットル）を生活排水として流すと、魚がすめる水質にするには一四〇〇リットルを超

える大量の水が必要となります。

生活排水を出す私たちが、川や海の水を汚さない一番の方法は、「汚れた水をそのまま流さない生活」をすることです。みんなで行うならば、ちょっとしたことに気をつけるだけで、大きな効果が期待できます。今日からでも、ふだんの生活で心がけてみませんか

### 【お風呂場では】

- ・髪の毛などは排水口に目の細かいネットを張ってキャッチ。
- ・シャンプー、リンスは適量を守りましょう。
- ・お風呂の残り湯は洗濯に。温水なので汚れ落ちがよくなります。（衛生上、すぎは水道水で）



### 【台所では】

- ・食事や飲み物は必要な分だけつくる。
- ・食器を洗う前に油污れはふき取る。
- ・米のとき汁は植木の水やりや、養分を含んでいるのでよい肥料になります。
- ・残った油は継ぎ足して使ったり、炒めものに使うなど、できるだけ捨てる努力を。やむを得ず捨てるときは新聞紙などに吸わせてから。
- ・水きり袋と三角コーナーを利用して、野菜の切りくずなどの細かいごみをキャッチ。
- ・食器を洗うときは洗い桶を使用し、洗剤は適量を水で薄めて使います。



### 【洗濯では】

- ・洗剤は計量スプーンでしっかり計って。多く入れても汚れ落ちがよくなるわけではありません。
- ・くず取りネットを取り付けて、細かいごみをキャッチ。

